

私の28年後

How I see Myself in 28 Years

阿部健一郎

Kenichiro ABE



(あべ・けんいちろう)

ICDフェロー

私は現在37歳親バカ真っ最中です。35歳で結婚し36歳の時に息子が生まれました。かなり気が早いですが、いつか息子と一緒に働ける日を楽しみにしています。皆さんもそういう想像をしたことはないでしょうか？

私は大学を卒業後6年間大阪と京都で研鑽し、歯周病認定医を取得し30歳で地元香川県に戻ってきました。現在、父とともに協力しながら働いています。父と診療をしていると、診療方針や医院運営などで意見が合わない時もあり、親子なので言いすぎてしまうこともあります。今の私があるのは、当たり前のように高校・大学と通わせてくれた両親に感謝しかありません。「ありがとう」と直接伝えることは、恥ずかしいですが、「ありがとうございます」。

もし、私と同じように息子が30歳で香川に帰ってきてくれたら、28年後までに、私に何ができるでしょうか？

歯科医師になる前の歯科医師に対するイメージは、むし歯を治す、入れ歯を作る、悪い歯を抜歯するといった、一般の方と変わらない知識でした。大学で学ぶ中、歯周治療に興味を持ちました。

実際、仕事してみると、予防医療、再生治療、精密根管治療、訪問診療、デジタルデンティストリーなど多岐にわたり、すべての分野を極めることは大変難しいです。どの分野も奥が深く、医療も常に進歩しているので、学ぶことにゴールはありません。

歯科医院は、院長と共に、患者さんも含めて年をとっていきます。祖父が作った入れ歯を今だに使用している患者さんも来院してくれています。私の住んでいる地域だけでなく、日本全体が超高齢社会の今、歯科医院として医療とどう向き合うべきなのかを改めて考えていきたいと思っています。

日々、治療をしていると新しいむし歯の治療よりも、以前治療したむし歯の再治療が多いのではないのでしょうか。むし歯の初期では簡単な保存修復処置が、何年かすると、歯内療法・補綴治療に繋がっていきます。最悪の場合は、抜歯といった処置を経験したことがない先生はいないのではないのでしょうか。「再治療」と記載すると、まだ悪いイメージではありませんが「やり直し治療」と記載されていると悪いイメージ

です。再治療があるからといって、父はその時の最善の処置を行っていたはずです。

この先、私が目指す歯科医院は「再治療」がなく「治療」で完結する歯科医院にすることです。一つ一つの治療レベルを上げることは大切ですが、本当に大切なのは、疾患のない口腔内環境を育てていくことです。患者さんにとって「歯はいつか悪くなるのが当たり前」というイメージをなくしたいと思います。

むし菌を予防するために、ブラッシング指導やフッ化物塗布も必要です。1本1本の歯を守ることが、口腔内の健康に繋がっていくと考えます。

お口がぽかんと開いている、鼻呼吸ができなくて口呼吸、乳歯列に隙間がない、口の機能が低下している子供が沢山います。その子供たちに正しく噛んで食べることを伝えても実行することは難しいです。

「Form Follows Function」機能は形態に従うといえます。正しい機能と形態の獲得が必要であり、その

ために、正しい咬合・呼吸・姿勢を子供たちに教育するだけでなく、両親とともに学び体験してもらうことが必要だと考えています。

歯科は医科と違い命の連続性があります。子供のころから通院してくれている患者さんが大人になり結婚し子供ができ、また赤ちゃんを連れてきてくれます。正しい知識を患者さんと共有しそれをまた、我が子に伝えてもらい、自分自身が受けてきたことをまた、子供にも安心して提供できるような歯科医院であるべきだと考えます。

私は「治すことができるので、予防もすることができる」と考えています。予防は大切ですが、治療の技術研鑽も大切です。阿部歯科医院に通っていたら「歯も口も健康なので、病気にもなっていない」将来はそんな患者さんで溢れる医院で息子とともに働ける環境を作っていきたいと思っています。甘い考えではありますが、私の28年後の楽しみです。